

Title	大学が新産業創造に貢献するためには何が必要か
Author(s)	
Citation	年次学術大会講演要旨集, 13: 168
Issue Date	1998-10-24
Type	Presentation
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/5639
Rights	本著作物は研究・技術計画学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Science Policy and Research Management.
Description	シンポジウム

シンポジウム

大学が新産業創造に貢献するためには何が必要か

基調講演 「21世紀の日本への提言—科学技術振興による閉塞感の打破—」

中 島 邦 雄 （通商産業省大臣官房技術総括審議官）

パネリスト

清 水 勇 （東京工業大学フロンティア創造共同研究センター長）

戸 谷 一 夫 （科学技術庁科学技術振興局研究基盤課長）

中 原 恒 雄 （住友電気工業株式会社特別顧問）

西 村 吉 雄 （日経BP社編集委員）

司 会

杉 浦 賢 （財団法人機械振興協会副会長）

趣 旨

これまで、大学の役割として社会から求められてきたのは、明日の社会を支える人々の教育および学術研究の推進でした。こうした役割の重要性は、今日においてもまた将来においても変わるものではありませんが、最近の日本が激しい経済社会情勢に直面する中で大学に対して新産業の核となる技術の創出とその移転が社会的に強く要請されてきています。

平成8年7月に閣議決定された科学技術基本計画においても、新産業の創出等社会的・経済的ニーズに対応した研究開発を強力に推進することや、大学等における研究成果の移転の円滑化を図る方向性が示され、激しい国家財政の下でも科学技術関係経費への特段の予算配分がなされるとともに、本年5月には大学からの技術移転を円滑に進めるための大学等技術移転促進法が制定されました。

本シンポジウムにおきましては、こうした背景の下で大学が新産業創造に貢献するためには何が必要か、また何をなすべきかという観点から各界の有識者に討論していただきます。大学に与えられた新たな使命ともいえる新産業創造への貢献に向けて現状分析、問題点の抽出、新たな取り組みの提案等幅広い観点から発展的な討論が展開されることを期待しております。